（日曜日休刊）（定價三錢）

（郵便局認可）

時事新報

第千二百三十一號
明治十九年三月廿四日 水曜日
（舊丙戌二月十九日 癸未）
日出午前六時零分 入午後六時十四分
月出午後十時三十六分 入午前八時三十八分
滿潮午前八時二十一分 干午後八時四十二分
（西暦一千八百八十六年）

時事新報

日本國の鐵道事業 九

鐵道の資金と得るは無造作の業あり

中山道鐵道公債の金額二千萬圓を空しく倉庫中に埋没し置て速く之を工事に放さゝるれ損は直接ゐ一年百四十萬圓の利息と徒費そるに在るとなれども更に一方より考ふるゐ此二千萬の公債は言はゞ百中れ百まで日本れ内國民が買取りたる者にして其代二千萬の正金ハ商工農社會の流通を離れ政府の手中には入りたるなれども唯入りさるのミにして出る事の遲ければまれが爲ゑ民間通貨の融通と妨げて更ゑ不景氣に餘勢と添る等の結果ゐるとゝゐ可らず利の附く金と遊ばせ置くは實に不經濟の話にして民間通貨の融通と滯らすやうなる貯蓄法も決て銘策とはあし難ゑなり之ゑ反し速に公債を募りて又速に其金を事業に放し入と出との間隙と短縮せば此民間より縱へ何程の大金を引去るとも其害は甚ざ淺うえて濟むべきなり經濟論の初歩にも公債の害ハ時として社會の資本を減そゝ不融通を起もに在りとあり此理甚ざ簡明ならん左れば中山道の公債ゆ姿は内債にてゐるなをども募集正金が一年にても二年にても空しく國庫中ゑ眠金たる間は實際の結果は恰もこの貧乏ゐる日本國より不時ゑ二千萬の大金と攫ゑ出して無緣の市場に撒きたるゑ異ならず、公債の所有主ゐそ唯七分の利息さへ受取れば夫ゑて安心も成るとなれ、日本國の經濟社會即ち商工農一般の頭上に取りては正ゑく二千萬圓丈の融通金を奪はれたる痛みと感するゑと亦已ゑ難き次第ならん是れ我輩が早く中山道の工事と急ぎろの資金を遷拂ふべしと主張もる所以なれども日本國の文明の爲め又富强の爲めに圖る時は鐵道資金は公債と決して此二千萬圓と以て慊れりとゐそ能はず、餘線は兎も角差當り東海山陽及び西海三道の鉄道は是非々々布設と要するの急ゐるが故に其工費として其計大凡ろ五千萬圓の公債と募り、之と以て大に鉄道の計畫とゐすべしと勸告するゐり但ゑその募集の方法に至りては内國債外國債孰れゐそるも妨かなし唯當局者の便に任すとしてこゝに我輩の意見をも述べんなゝば、好し内國債にするとも成丈早く募りて又成丈早く之を工事に放し、務めてその出入の間を短うゑ、永く民間の融通貨を引上ゆ置くやうの事と選くるときは日本の經濟社會貧なりと雖ども決て不景氣なりと雖ども五千萬圓の資金ハ容易ゐ政府の手に入らんと思ハるゝなり且つ昨今の不景氣ゑては却て資本家に遊金多く、百事危險にて孰れもそれ金を放すに苦ひの際あれば今に及んで此遊金を利し早く之を鉄道の事業に元入なきば不用の金も有用の働をなし、日本國の全体に活氣を與へ起て鉄道資金の民間に落つる發には世の不景氣も直り資本家の資金安全の地處と得に至るなしとも云ひ難し今の有樣にて若しも政府が七分の利子と給すとならば先般既に中山道鉄道公債の例もゐり縱へ五千萬ハ得られずとも其の半額位は咄嗟にして辦ずるに足るべきゐらん

然れども五千萬圓の鉄道資金必ずしも之を國内ゐ限りて募るに及ばず行て之と公然、外國の市場に募るも可なり其市場は英國にても獨逸にても又米國にても差支なしとも日本國の政府が年六七分の利子を給すとあらば歐米の資本家は爭て之に資金投ずると疑ひあきなり抑も一昨年來歐洲の市場何となく不景氣ゑしく商賣活潑ならざるゑより資本家は孰れも金の使用口無きゑ苦み居たる折柄、昨年の秋來、支那政府に於て國内十八省と貫き彌々數條の鉄道を布設するゑ極まりたりとの風聞出しより左ばゑの機と外さる支那政府にろの資金と貸もべしとて中にも英國の商人れ如きは大にゑの支那鉄道に注目し、既ゑゾアプール の商人某は右談判の爲め支那へ向け出發したりと云ひ或ゑ支那の鉄道工事は在北京の英人ハアト氏が專ら之と擔任して資本も材料も總て英國ゑ仰ふぐ順序と定まり、先に同氏が全權公使の任命を辭したりしも其底意全く爰に在りと世の取沙汰もあり又昨年の秋頃と雖ども タイムス新聞の紙上に於て支那の鐵道工事ハ英國これと引受くべし是れ無慾政策にそて獨り英國れ利益のミゑ止らず其實、支那自國の爲めゑもあらんと論ずるゑ米國の新聞ゐ故さふゑその無慾政策の字を伊太利字樣ゐ區別して之と嘲弄ゑ、同時に米國の資金幷に其鐵道の材料と支那國へ輸入すべゑと論せしとあり又近頃の報ゑ由れば獨逸銀行國立割引會社及びクルップ製造會社より三名の代理人が此程支那に渡來ゑたり是れは一億弗の金と鐵道資金及び軍備擴張費として支那政府ゐ貸渡すが爲めゑして此計畫には獨逸政府も大に關係するとも聞えたり この外佛國は昨年五月の天津條約に基き支那内地鐵道の建築にハ扶佛師と涙して工事ゐ與るの權を有し併て與に材料を賣渡し資金とも貸與する周旋をしつゝあるとも云ひ又米國の如きも一兩年來の不景氣にて多少遊金を見るの實あるより又々東洋の鉄道に着目し、米國ハ既に墨西哥に對してハ第一着に材料の賣附とゑ又鉄道の資金を貸したり更ゐ第二着には東洋の鉄道工事ゑ米國人の資本を放すと大切なりとの論も盛んに又昨年十月頃の鉄道雜誌に紹育某會社の人某は支那政府と鉄道資金及び材料の約條取結びのため同國へ向け出發ゑたりとも明記せり此談判の如何ゑ纏まりしかは我輩未だ之と知らずと雖ども歐米一般東洋の鉄道工事ゑは最も着目の今日ゆゑ我日本政府がゑの間に投ゑて五千萬の公債と募ると云はゞ即座にしてこれを辨じ得ると亦易々さらんのみ五千萬の外國公債ハ其難易と遇慮するゐ足らざるゐり（未完）

官報

○敍任 明治十八年十二月十五日 外務書記生 大越成德
任免 顚事 大越成德
○辭令
佛國里昂府在勤被仰付
（明治十八年十二月十五日太政官）

（各通）

總務局制規課々員陸軍歩兵少佐 眞鍋賦
總務局制規課々員陸軍歩兵少佐 井上祥弘
臨時陸軍制度審査委員被仰付（以上三月十九日陸軍省）
海軍大佐 有地品之允 前桂理
補參謀本部海軍部第一局長兼參謀本部海軍部副官 海軍大佐 柴山矢八 札幌牛越實
補參謀本部海軍部第二局長 海軍大佐 柴山矢八
參謀本部海軍部第三局長心得被仰付海軍中佐黑岡帶刀
補參謀本部海軍部第一局第一課長 海軍少佐 日高壯之丞
補參謀部海軍部第二局第一課長兼參謀本部海軍部第二局第二課長 海軍少佐 有地品之允
醫科大學教授 宇野朗
醫科大學第一醫院長心得兼第二醫院長ヲ命ス 矢田部良吉
帝國大學植物園管理ヲ命ス 理科大學教授 矢田部良吉
帝國大學圖書館管理ヲ命ス 法科大學教授 木下廣次
帝國大學圖書館管理ヲ命ス（以上三月十九日帝國大學）
四等警視 三村雪
下谷警察署長被仰付（三月二十二日警視廳）
○河瀨公使上院開祭式參列 英國女皇は去る一月二十一日上議院に臨幸ゑく親しく開院の盛典を執行せられたり此の日河瀨特命全權公使は同國宮内大臣の案内と請け夫人及目下當地滯在中の侍從藤波言忠幷に書記官大山綱介を隨へ該式に參列せり
○全國代言人總數 昨十八年十二月三十一日司法省ゐ於て調査せる全國代言總人員い千六十五人（内四人は一の組合を脫し未他の組合に加入せそ）よしく塊名會長氏名及人員區別左の如ゑ（但し三府は副會長と併記し△印を付そ）

管轄裁判所名	會長	總人員
東京	高橋一勝	一七〇
△中島又五郎		
△高梨哲四郎		
二宮歸作		
和田清風		
關信之助		
廣田寶二		
神谷溫作		
宮崎備三郎		
小暮親三		
遠藤靖一		
長野鎮目弘毅		
根本百世		
青木鑑三郎		
原田種美		
高田鼎		
△林高智		
嘉遠		
横濱	成吉	一五
八王子	五千葉麻生致一	一〇
木更津	八日市場伊藤德太郎	八
水戸	土浦小川與吉	七
下妻	廣田寶二	九
宇都宮	神谷溫作七	九
熊谷	小暮親三四	一四
靜岡	遠藤靖一五	九
甲府	長野鎮目弘毅	一〇
松本	伊藤久藏一七	六
新潟	石井大介一二	六
長岡	坪井喜平七	三
相川	柄澤寛四	三
大坂	△北村左吉	八
△菅積順藏		二
瀨川正治		一八
堺	戸加藤勝助一七	四
神戸	加藤勝助一七	四
姬路	金藤五郎	三
岡山	安正三一	五
大津	酒井有九	四
福井	龍雄一一	四
七尾	唯房三	九
和歌山	梅本良太郎一一	一四
德島	久次米三造一九	一四
松山	鹽野政高一四	二五
高松	安東貞一〇	四
岡崎	岡島博四	隆
山田	杉山積五	三六
高山	白木瑛太郎三	一四
尾道	喜多英七郎九	一八
赤間關	稻垣晚翠四	五
濱田	水津靜世一	四
米子	野田常貞一二	一三
佐賀	吉田惟清八	七
久留米	小畑精四	八
大分	後藤喜太郎一〇	五
露本	松山守善一六	五
仙臺	大立目重成二九	八
白河	伊藤庄藏二	四
山形	田中精一五	二
酒田	長濱廉四郎一一	七

○足利通信 足利織物講習所少技長の派出ゐ日より教授を始業者が最も多き中にも英國人ハアト氏は宕山より蓮臺寺相談一決ゑ既に不日工事に着手の爲めコーン氏は今度機物ゐ米國に輸出せ店に就て定約せる十七日群馬縣の狀況を視察の氏の來着を待ち來着せし米國チ

○福井通信 福井中學校ゐ授業料の事にありしが遂に醫議にて本年の士族木費の建議に決し議長より本縣中學校ゐ

○秋山通信 伊達郡ゐ遇中ありしが本日は同三十錢宛を議したるに今回路開鑿起工式は雖ども五兩日に延引せ鑿せゑ二三の有志の模樣にて一儀に變動なく大豆は象配宜しからず二十五圓内外ゐ百六十五圓位あり景氣よし

○關縣令 ゐ關縣令は南濱義整と稱せ日御事ゑ轉任し當任地へ發向するに付諸官衙の吏員より諸官衙の吏員宴を開けり○縣員りしい久米郡にて八（新撰）、原早郡（再撰）、片山高義田彦（新撰）、北宇和郡（新撰）、南宇和郡義敬（再撰）、上浮穴郡

○物産及毛織の